

令和5年度岡山大学入学式及び大学院入学式 式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。岡山大学の教職員、在校生、卒業生など、本学に関わるすべての人たちを代表して心からお祝いを申し上げます。

新入生の皆さんは、この3年間コロナ・パンデミックのもとで過ごしてこられました。日々の生活に加え、授業やクラブ・社会活動、そして受験勉強などにおいて、様々な制限を受け続けて来られたことと思います。皆さんは、この不自由な時期を本当によく耐えるとともに、困難を乗り越える知恵と行動の結果として、今日という素晴らしい日を迎えられました。皆さんのこれまでのご苦勞、心身の強さに敬意を表するとともに、皆さんを支えてこられたご家族などの関係者の皆様とともに、本日の入学式を挙行できることを大変喜ばしく思います。

新入生の皆さんが今日から学ばれる岡山大学は、今から153年前の1870年（明治3年）に創設された岡山藩医学館を起源とする岡山医科大学、1900年（明治33年）の旧制第六高等学校、1914年（大正3年）の大原奨農会農業研究所など、岡山の地にあった伝統と優れた教育研究実績を誇った高等教育機関を統合して、1949年（昭和24年）、新制国立大学として設立され、今年で創設74年を迎えます。

また全国有数の緑豊かな広大なキャンパスにはデザイン性の優れた美しい建物や、憩いを生み出す交流広場を配し、学生皆さんや教職員のみならず地域や世界の人々も集い、学び合える素晴らしい環境が用意されています。

このたび新入生の皆さんにとって新たな生活がスタートしたのと同様に、私自身、母校の学長としての新たな生活がスタートしました。私は、48年前の1975年（昭和50年）に岡山大学に入学しました。入学式当日の風景、音、匂い、そして、その中にいる期待と不安を抱きながら家族と一緒に入学式に参加した自分の心情、これらの感覚を昨日（きのう）のこのように鮮明に覚えています。いま振り返れば本当にあっという間の48年間でありましたが、在学中に得たよき友、よき師との様々な交わりは私自身の人間としての成長や仕事のキャリアなどに大きな影響を与えた何者にも代えがたいものであり、岡山大学で学ぶことができたことを人生の誇りに思っています。新入生の皆さんにも同じような思いをしていただきたいと心から願っております。

このような経験と思いをもとに、私は本年度からの学長就任に際し、「不易流行の大学経営」を提唱いたしました。「不易流行」は今日のキーワードです。ぜひ入学式の記憶として留めておいて下さい。不易流行は松尾芭蕉の俳諧の理念であり、時代が変わろうとも不変なもの・変えてはいけないものを「不易」と言います。また、時代の変化、社会の要求や期待に応える形で変化させていかねば

ならぬものを「流行」といいます。皆さん自身にとっての不易流行とは何かぜひ考えてみてください。これからも私は折に触れて皆さんにこの不易流行を問いかけていきたいと思います。一緒に自分事（ごと）として考えていきましょう。

私は大学経営における不易流行の「不易」は、岡山大学に関わる人々、そしてこれから関わる人々（マルチステークホルダー）の持続的で多様な幸せ（Well-being)の実現を追求することと定義しました。そして不易流行の「流行」は、国内外の社会情勢を見極め、国の施策や地域の思いを先取りし、形として先導する組織経営改革・人材育成・研究開発などを行うことと定義しました。

私が学長として経営の根幹に据えている不易の部分において、学生の皆さんは最も大切なステークホルダーであり、岡山大学が一体となり「誇りと希望」を醸成する中心的な存在です。

私が学生の皆さんに「不易」として求めたい、そしてヒトとして生きていく根幹的な姿勢は、自分自身のことのみならず、家族、友人、地域社会、そして地球のあるべき姿や課題について想像力豊かに思いを巡らせ、自分自身ができることを主体的に考え、新たな価値を創り出していこうとする姿勢、行動です。言い換えれば皆さん一人一人が主役（主体）なのです。そして、そのような姿勢、行動を持つ人物になるよう私をはじめ教職員は、皆さんの在学中そして卒業後も努力を惜しみません。

今回の新型コロナウイルス感染症の世界的流行は皆さん一人一人の生活のみならず人類社会に大きな影響を及ぼし、不確実性に満ち溢れ予測不可能な未来を自分事（ごと）として改めて考え直す機会となりました。地球温暖化に対する脱炭素社会の実現、デジタルの力により誰一人取り残されない社会の実現も間近に迫った他人事（ごと）ではない課題です。これはまさに不易流行の「流行」の部分です。

岡山大学は、「地球と生態系の健康（Planetary Health）」の実現に向かって、地域と地球の「ありたい未来の共創（共に創り上げていくこと）」に貢献することを使命とし、その使命達成のため「岡山大学長期ビジョン 2050：地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」を新たに掲げて、地域・世界の多様なステークホルダーとの新たな繋がりを深めています。

また「岡山大学ビジョン3.0：ありたい未来を共に育み、共に創る研究大学」の下、2022年～2027年の第4期中期目標期間の2年目を迎えています。持続可能性と多様な幸せ（Well-being）を追究する「SDGs推進研究大学」として、人文・社会科学から自然科学・医療にわたる幅広い専門知・実践知と、データサイエンスをはじめとする、新たなリテラシーとの分野横断的な統合による「総合知」の創出と活用を推進しています。そして、データ駆動型社会において地域と世界のことを考え活躍できるいわゆるグローバル人材の育成と、組織・団体の垣根を越

えた協働事業・国際共同研究などを発展させています。

特に、教育においては、新たな価値創造と世界の革新に貢献する人材として、「主体的に変容し続ける先駆者」の育成を使命に掲げ、大学院教育の改革に続き
学士課程教育・高大接続の一体改革と、社会人の学び直しの充実に取り組み自ら
変容し続けています。一連の改革を通して、地域・世界との「共育共創」の枠組
みの下、学修者である皆さん本位（主体）の教育体制と環境を、研究大学に相応
しい姿で構築しています。

私が岡山大学に入学してから過ごした約50年間を振り返ると社会は色々な意味で大きく変化しました。新入生の皆さんがこれから過ごすであろう50年間は
どんな50年間でしょうか？今回のコロナ禍を通じて皆さんもよくお分かりのよ
うに、今後の日本・世界そして地球は、ますます予測が困難な変動の時代になる
と言われています。目まぐるしく変化する地球規模の課題に対して、私たちはそ
の都度柔軟に適応していかなければなりません。これは不易流行の「流行」の部
分です。しかし、現代社会の課題の多くは、極めて複雑に絡み合っており、目の
前の変化だけに囚われていては、課題の本質に近づき、解決の適切な糸口を掴む
ことは難しくなります。不易流行の「不易」を見定める必要があります。そのよ
うな時に求められることは、「未来のあるべき姿」を思い浮かべ、そこに近づく
ために、いま何が必要かを自分事（ごと）として深く考え、自ら行動することで

す。誰かが考えて、誰かがしてくれるわけでは決してありません。皆さん自身の未来です。新入生の皆さん、今日から我々と一緒に学び、考え、そして主体的に行動してみませんか！そのような仕組みを私たちはたくさん用意しています。

最後に、本日ご臨席くださった保護者ならびに関係者の皆様にお礼とお願いを申し上げたいと思います。このたびは、皆様のご家族の進学先として、私たち岡山大学を選んでくださり誠にありがとうございました。私たち教職員一同、新入生の皆さんが、日本だけでなく世界でも活躍できる教養豊かなグローバル人材として成長されるように、全力で支援をして参りたいと思います。また保護者の皆様におかれましては、岡山大学が、今後も引き続き充実した学びの場となるよう、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新入生の皆さん、今日から岡山大学の学生として、「希望」に溢れた新しい一日が始まります。どうか自分を信じ、主体性をもって、将来への大きな夢と希望に向かってワクワク・ドキドキした大学生活を送ってください。皆さんが主役です。私たちは、皆さんとともに築いていくこれからの未来が、これまでの本学の歴史や伝統を超えるものとなり、皆さんにより大きな「誇りと希望」をもたらすことを心から期待しています。本日は誠にありがとうございました。

令和5年4月2日

国立大学法人 岡山大学長 那須 保友